

4回連続 オンライン学習会

グローバル・ コモンズとしての オリンピック


4回とも
オンライン
セミナーです
ご自宅から
ご参加いただけます

新スポ連附属スポーツ科学研究所が発行した叢書第1巻『グローバル・コモンズとしてのオリンピック』を解説し、意見交換を行う学習会を行います。現在のオリンピックの抱える課題から、今後のスポーツ実践・スポーツ研究につながる議論を展開するために、ぜひご参加ください。

第
1
回

5/14

(木)

19:30 ~ 21:00

叢書の位置づけとねらい

報告担当：山下高行

(序「グローバル・コモンズとしてのオリンピック」他執筆)



第
2
回

5/23

(土)

13:30 ~ 15:00

近代オリンピックの歴史的展開

報告担当：功刀俊雄

(第2章「国際オリンピック委員会と国際人権」他執筆)



第
3
回

5/28

(木)

19:30 ~ 21:00

2020 東京オリパラのもたらしたものの

報告担当：青野桃子

(第5章「東京2020大会で問われた「スポーツの力」とは何か」執筆)



第
4
回

6/4

(木)

19:30 ~ 21:00

オリンピック、そしてスポーツの未来へ

報告担当：棚山研

(終章「コモンズとしてのオリンピック」にむけての若干の示唆—「ケア倫理」にもふれて—」執筆)



参加費 **無料**

対象

どなたでも参加できます

(学生、スポーツ関係者、研究者、市民活動に関心のある方など)

申込み方法

下記の事務局メール（または電話）で「お名前」「メールアドレス」を事務局に伝えて、お申込みください。後日、Zoomの入室アドレスをお送りします。

INTRODUCTION

新日本スポーツ連盟附属スポーツ科学研究所 叢書 1
『グローバル・コモンズとしてのオリンピック』

発行:創文企画、339頁、3,400 円(税別)

2026 年 3 月31日発行

【叢書第1巻と学習会のねらい】

第1巻では、今日のオリンピックの抱えている問題は何かを考え、オリンピックさらにスポーツの展望を議論しています。オリンピックは人類共通の遺産ともいえるコモンズ(公共財)としての性格を持ちます。しかし、スポーツが「みんなのもの」で基本的人権の一部であるとは言えない状況を生み出しているのも、オリンピックです。この本は原理、実践、国際的な探究、さまざまな視点からの論考を収録しています。

現在のオリンピックの抱える課題から、今後のスポーツ実践・スポーツ研究につながる議論を展開するために、ぜひ学習会にご参加ください。



CONTENTS

【目次】

序 グローバル・コモンズとしてのオリンピック(山下高行)

第1部 オリンピック運動の現在地

第1章 オリンピック運動と平和の関係を問う(青沼裕之)

第2章 国際オリンピック委員会と国際人権(功刀俊雄)

第3章 国際障害者スポーツ運動の歴史的展開と国際オリンピック委員会(功刀俊雄)

第4章 サバイバルユニットとスポーツーアイルランドを例にー(坂なつこ)

第2部 東京オリンピックとは何だったのか

第5章 東京2020大会で問われた「スポーツの力」とは何か(青野桃子)

第6章 市民運動から見た2020東京オリンピック・パラリンピック大会

ーオリパラ都民の会の活動を通じてー(和食昭夫)

第7章 東京オリンピックと東京大改造(岩見良太郎)

第8章 東京2020オリンピックにおける「新しさ」の政治性とは?

ーポスト2020のオリンピック・ポリティクス分析の論点整理ー(市井吉興)

第3部 オリンピックの未来を考える

第9章 ポスト東京2020のライフスタイルスポーツ・スケープの描き方

ープロソーシャルなライフスタイルスポーツへの「助走」ー(市井吉興)

第10章 オリンピック・スポーツの未来とSDGsーその危機と変革の方向性ー(山下高行)

終章 「コモンズとしてのオリンピック」にむけての若干の示唆

ー「ケア倫理」にもふれてー(棚山 研)

学習会①

5/14(木)

叢書の
位置づけと
ねらい

学習会②

5/23(土)

近代オリンピックの
歴史的展開

学習会③

5/28(木)

2020東京オリパラの
もたらしたもの

学習会④

6/4(木)

オリンピック、
そしてスポーツの
未来へ